

私的時空間情報の作成管理とストーリーを持った時空間情報コンテンツ Managing private spatio-temporal information and story based spatio-temporal content

鍛冶 秀紀¹, 有川 正俊^{2*}

Hideki Kaji¹, Masatoshi Arikawa^{2*}

¹ 東京大学大学院学際情報学府, ² 東京大学空間情報科学研究センター

¹Graduate School of Interdisciplinary Information Studies, The University of Tokyo, ²Center for Spatial Information Science, The University of Tokyo

人々が日々の生活の中で体験する多くの事柄は、場所と時間によって整理することができる。ブログや SNS のような利用者が自由に情報を公開できるサービスの普及と、GPS や加速度センサー、ネットワーク機能など小型携帯端末の進歩により、いつでも簡単に場所と時間に対応した個人の情報を記録することが可能になった。しかし、それらの情報はある地点、ある時点の情報として記録されたものを時間順で表示するだけで、意図してそのような順序で提示されているものではない。人々が他者に連なりを持った情報を伝達する際には、伝えたい情報から必要な部分を強調し、不要と思われる部分を簡略化あるいは切り捨て、伝わりやすいように順序を入れ替える等の編集を加えたものを用いる。この編集行為は情報のストーリー化ととらえることができる。またストーリーは主に時間軸を中心に構成されることが多いが、場所の記述を地図上に表現することによってストーリーはより構成しやすく、理解しやすくなると、我々は考えている。

そこで我々は、空間を基準とした位置情報システムに、年表という時間を基準にした要素を取り入れ、利用者が自らの持つ情報を時間と空間に関連づけられた情報(時空間情報)として記録を残すとともに、それらの時空間情報を取捨選択しストーリー化して他者に公開できるシステム "pTalk" を開発した。pTalk は Web アプリケーションと iPhone アプリケーションで構成されており、Web アプリケーションでは、地図表示だけでなく年表上に情報オブジェクトが配置され、地図と年表の両方から情報を検索し表示することができる。地図が現実空間を記号化したものととらえれば、年表は時間を記号化したものと考えることができ、地図と同じような記号化、簡略化の表現や拡大縮小のような操作を可能としている。一般的な地図サービスでは現時点での地図は提供されるが、過去のある時点における地図は提供されない、しかし過去の情報を地図上で表示する際には現在の地図が適当でない場合もあるため、pTalk では利用者の用意した任意の画像を背景として設定し(ユーザマップ)、地図サービス上の緯度経度を持った時空間情報をユーザマップ上のローカル座標にリンクすることで、ユーザマップ上にも緯度経度情報を反映させることができる。pTalk では情報をストーリー化する方法として、自身の持つ時空間情報の中から、任意の順序を付けて並べた時空間情報コンテンツ(パッケージ)を作成し他者に公開することができる。パッケージ化することによりただ時系列順で並べる、地理的に近い物をまとめるといったものではない、自らの意図にそった形で情報を提示することが可能となる。

iPhone アプリケーションでは (1) 利用者が出かけた先で興味のある場所や物に対するコメントや画像を情報オブジェクトとして残し、これまでに自分自身が pTalk 上に作成した情報を確認する (2) 現在地周辺に関して他者が編集し公開している時空間情報コンテンツを閲覧する。などの位置情報サービスとしての機能を提供する。